

貧困と格差を打ち破ろう

「働き方改革」のペテンと危険



貧困の拡大

生活に困窮している人が今や「多数者」です。

非正規雇用は二〇二五万人で四〇%を超えました。年収二百万円以下の「ワーキングプア」が千百三十九万人、四人に一人に達しています。健康保険、年金、介護保険の

保険料を払い、残ったお金で一体どんな暮らしができるでしょうか。貯蓄ゼロ世帯は単身世帯では二人に一人、二人以上世帯で三世帯に一世帯です。

保険料滞納が増えるのも当然です。学生は「ブラックバイト」で苦しめられ、卒業と同時に多額の奨学金返済に窮しています。生活保護世帯は一六五万世帯、捕捉率はわずか二割。六五〇万世帯以上が生活保護水準以下で暮らしているということです。特に第二次安倍政権発足以降、二〇一五年度までの国民負担増は消費増税、年金や子ども手当減額、年少扶養控除廃止、復興

増税、年金・介護・健康保険料引き上げ等により二〇兆円。子どもの貧困は即ち親の貧困、祖父母の貧困と連動しています。他方で、安倍政権は大企業減税を推進、消費増税分はきっちり大企業や富裕層の利益に移っています。結果、内部留保は増えつづけ三五兆円。国家予算の三年半分以上。富裕層はますます富み、格差が広がっています。

介護労働者の現状

介護労働者の現状は、非正規雇用が多数を占め、施設では四割強、訪問ヘルパーでは八割以上です。施設の介護職は三〇代、四〇代が約半数、女性が

七五%を占め、訪問ヘルパーは六〇歳以上が三割、女性が九割です。介護職の賃金は、全産業平均より月額一〇万円も低く保育労働者と同じです。どの介護職場も深刻な悩みが人手不足、その最大の原因は低賃金、長時間の過酷な労働条件です。両者の悪循環、これが介護の質に影響し利用者が犠牲にされています。

介護労働の問題は、歴史的に根深く横たわる女性労働者への差別、それに由来する非正規という差別雇用の問題であることを浮き彫りにする数字です。この差別と犠牲の上に介護保険がろうじ

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

て成立しているのです。

介護労働の価値を正當に評価するならば、サービスの公定価格である介護報酬がこれ程までに低いことはあり得ません。

安倍政権は介護報酬を含む法制度の更なる大改悪、「保険料あって介護なし」化を狙っており、全く言語道断です。

「働き方改革」ならぬ改悪はゆるさん

安倍は今「働き方改革」と称して「長時間労働の是正」「同一労働同一賃金」「非正規という言葉を一掃する」など耳触りの良い言葉を並べています。アベノミクス破綻をごまかす為と言わざるを

えない側面もありますが、成長戦略に位置づけた「改革」であり、内容はむしろ働き方改悪です。

★長時間労働を推進

◆「長時間労働是正」と言いながら、「残業代ゼロ」「低額・定額働かせ放題」「過労死促進」と

批判を浴びている労基法改悪案を継続審議としている。まずこれを撤回せよ！◆残業規制の上限を過労死ラインギリギリに設定しようとしている。

「過労死ラインまで働かせていい」とお墨付きを与えるものだ。◆四割を超える非正規職や低賃金の正規労働者は掛けもちの仕事や長時間残業でか

ろうじて生活している。

そうした長時間労働を是正する気は全くない。是正が必要であり、その大前提は大幅賃上げ、「八時間働いて生活できる賃金」の保障である。しか

し安倍は決して低賃金を問題にしない。是正は口

にしない。◆自宅就労など「多様な働き方」は長時間労働や健康破壊をもたらす。「労働時間に基づいて賃金を支払う、労働時間管理は使用者の義務」この原則を崩すもの

だ。「使用者の健康配慮義務」免責にもつながらる。**★足元から非正規なくせ**
◆公務員の三人に一人は非正規職員。非正規職の

一掃は足元からやれ！という話だ。しかし霞が関

にも永田町にも多くいる非正規職を「一掃する」気配はない。結局、非正規を「限定正社員」等と言い換え「非正規の言葉」を無くす、正規を非正規に近づけるのが狙いだ。

★同一労働同一賃金の嘘

◆世界でも名だたる女性差別賃金王国。これを是正せずして同一労働同一賃金を語る資格なし。「同一」に高いハードル

を設けて賃金差別を放置、同時に低い方に「同一」化していくー要注意だ。**安倍にやらせるー闘い**
「安倍がやってくれる」のではなく、「安倍にや

らせる」闘い、労働者・市民の連帯と団結と闘いの力が要です。

介護保険の課題

介護保険はサービス利用と介護報酬が増えると自己負担と保険料にはねかえる仕組みになっており、介護職員の処遇改善加算金も保険から出されています。利用者との介護・事業者の利害が対立する関係が法律に組み込まれています。国庫負担・自治体負担による大幅な賃金・労働条件改善が必要。誇りと喜びを感じながら「安心・安全な介護」をしたい、介護職の切なる願いです。

介護保険大改悪との当

面の闘いは、①市町村事業に移行された「要支援者」のサービス切捨てを許さない、②自己負担三割導入など問題の多い介護保険法改悪案に反対する等が重要です。

制度発足から二倍以上がっている保険料も重大な社会問題です。高齢者が悲鳴をあげています。ほんとに怒っています。

財源はある！

税金を使って公的介護制度を充実させるための大きな闘いが必要です。なぜ「一機百億円のオスプレイ十七機購入」や数兆円のオリンピック、数千億円のカジノや万博費用は「聖域」の如くま

かり通り、社会保障は「費用の増大」をやり玉に挙げて削減！削減！なのでしょいか。介護の切捨ては命の切捨てです。こんな政治が、長生きや障害を「迷惑」「悪」「生きる価値がない」と見る価値観や行為を社会に、一人一人の心の中に浸透させているのです。

冒頭でも書きましたが財源はあるのです。

社会保障は社会に還元

社会保障費は、介護・保育・医療などの事業、また従事する労働者の暮らしを通じて地域社会に還元され経済効果もあります。それも見ないで社会保障の切捨てだけ走

る国や自治体に、高齢者・障害者の尊厳、生きる権利に介護の権利を突きつけていきましよう。カジノや万博などではなく、暮らしと命を守ることが国・自治体の第一の責務です。

介護を受ける人、家族、介護職、地域住民、事業者や業界団体、市民団体や労働組合などが垣根をこえ共に声を上げ、行動をおこす時です。

再度大集会を開催します

五月十二日(金)

午後六時半

北区民センターホール

「介護の切りすてアカン！みんなの大集会」

実行委員会主催